



DAIDO CAMPUS

No.89 2016.12



写真提供：アルバム委員会



大同大学
DAIDO UNIVERSITY



ハンドボール特集

男子・女子ハンドボール部
東海学生ハンドボール秋季リーグ戦
男子は全勝優勝で創部以来初の春秋連覇！
女子は準優勝！



東海学生ハンドボール秋季リーグ戦で、本学の男子ハンドボール部が2000年の創部以来初の春秋リーグ戦連覇を達成しました。また女子ハンドボール部も春季リーグに引き続き準優勝となりました。

男子は9月25日(日)に本学の体育館で中部大学と対戦。全勝同士の対決で6点差を覆す大逆転勝利を収め、最終戦を待たずして見事優勝を飾りました。また、10月5日(水)付の中日スポーツ、10月7日(金)付の中日新聞には、男子ハンドボール部が中日新聞社に優勝報告をした様子が掲載されています。

女子は10月2日(日)の最終戦で中京大学と対戦。こちらも全勝同士の対決となり、勝つか引き分けで優勝でしたが、15対18で惜しくも敗れ準優勝となりました。

初の男女アベック優勝は逃したものの、多く



写真提供：アルバム委員会



の選手が個人賞を受賞するなど男女とも年間を通して安定した実力を発揮し、春秋あわせてタイトルを獲得しました。

秋季リーグの個人賞		
男子	最優秀選手賞・得点王 4 年原田一沙さん	
	ベストセブン 4 年横溝貴大さん 4 年渡部智寛さん 3 年林田龍哉さん	
		女子
	ベストセブン 4 年高橋奈々さん 3 年福地成以良さん	

男子ハンドボール部

全日本インカレで創部以来初のベスト4進出
見事3位に輝き、メダルを獲得しました！！



11月19日(土)～23日(水)まで開催された、全日本学生ハンドボール大会で、本学の男子ハンドボール部が創部以来初のベスト4に進出し、見事3位に輝きました。

た！

22日(火)にアスティとくしまで行われた準決勝には、ベスト4進出を決めたハンド部を応援しようと、試合会場と、本学のゴビーホールで開催したLIVE配信のパブリックビューイングにご父兄や教職員・学生が集まり、本学が一体となってハンドボール部の応援をしました。惜しくも28-32(大同一国土館)で敗れてしまいましたが、一度は9点差に開いた点差を縮めようと、終わりを告げるブザーが鳴る直前までゴールを決め、あきらめない姿を見せてくれました。試合を見た人々の心を感動させ、パブリックビューイン

グの会場では、敗戦に悔しい思いを感じながらも、選手たちの姿に、また、ベスト4を称えて、大きな拍手が沸き起こりました。

試合が終わった後には、今まで身の回りのフォローしてくれた後輩たちに感謝の意を込めて、4年生が自主的に後輩の分のユニフォームを洗濯しました。

また、本件は、11月28日(月)付中日新聞に掲載され、佐藤壮一郎監督は「試合に出ている選手だけでなく、コート内外の一体感がこの結果につながった」とコメントしています。

男子ハンドボール部は12月20日(火)から始まる日本ハンドボール選手権にも出場します。



男子ハンドボール部

全日本インカレの注目チームとして 専門誌で紹介されました

創部史上初めて東海リーグ春秋連覇を全勝で成し遂げ、西日本インカレでもチームの歴代最高成績と並ぶ準優勝を獲得。その確かな成績から、ハンドボール界唯一の月刊専門情報誌「スポーツイベント・ハンドボール」11月号に全日本インカレの優勝候補の一角として

紹介されました。

全日本インカレでの過去最高成績はベスト8。今年はこのベスト8の壁を超え、コートサイドでも日本一をめざす最高の応援とともに見事3位に輝き、メダルを獲得することができました。



ハンドボール部 原田一沙さん、原田竜汰さん 三重樹弥さん

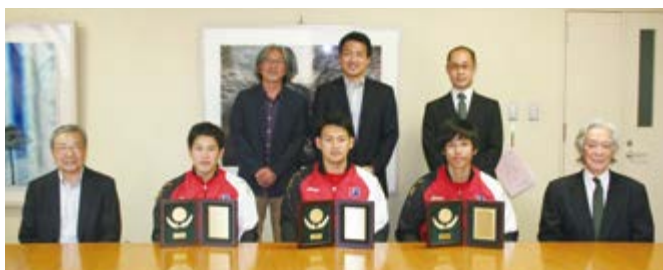
大同大学奨励賞を受賞しました

8月30日(火) U-24日本代表に選出された経営情報専攻4年の原田一沙選手、U-21日本代表に選出された経営情報専攻2年の原田竜汰選手・三重樹弥選手が大同大学奨励賞を受賞しました。

原田一沙選手は昨年に引き続き、今年も日本代表としてU-24に選出されました。日本チームは惜しくもメダルには届かず4位となりましたが、予選リーグは全勝一位通過と、これからの日本

の活躍に希望を与える結果となりました。

原田竜汰選手・三重樹弥選手は、今回が初めての日本代表選出。本学の男子ハンドボール部 佐藤監督とともに、ヨルダンで開催された男子ジュニア選手権に出場しました。U-21日本代表は、本学の石井記念体育館でも練習を行い、7月18日(月)に、本学のバスに



乗ってヨルダンに向け出発。最終結果は4位となり、残念ながら世界選手権出場権の権利獲得には至りませんでした。本学から選出された3選手ともそれぞれ得点を挙げて、大いに活躍し、チームの勝利に貢献しました。

月刊専門情報誌「スポーツイベント・ハンドボール」で次世代を担う 注目選手に本学の男子ハンドボール部から3名が選出されました

月刊専門情報誌「スポーツイベント・ハンドボール」において2020年東京オリンピック開催時に25才、26才と脂が乗ってくる時期を迎える世代の中で注目される選手を男女各106

名選出する特集記事「次世代タレント名鑑～未来の日本代表を探せ～」が掲載されました。

その中で本学からNo.9に原田一沙選手、No.42に三重樹弥選手、No.45に原田竜汰選手

が全国の並み居る選手の中から見事選出されています。これからも日々の鍛錬を重ね、東京オリンピックでは日の丸を胸に活躍する姿が見たいですね。

File No.9 原田 一沙



1994.4.16
B P / 右
169cm
大同大4年

同年代の田中(筑波大)にも引けを取らない東海勢屈指の司令塔。体軸の強さ、ミスの少なさが売り。

15WJ 16WU

File No.42 三重 樹弥



1997.1.5
RW / 左
177cm
大同大2年

精神面を強化したことで、プレーの安定感が増した。初代表のアジアジュニアでも及第点以上のデキ。

16AJ

File No.45 原田 竜汰



1996.1.13
B P / 右
178cm
大同大3年

フィジカルが強く、コンタクトされながらのプレーを苦にしない。シュートを狙う積極性も光る。

16AJ



平成 28 年度体育祭が開催されました

10月22日(土)、23日(日)の2日間で体育祭が開催されました。

今年度は例年実施している球技(バスケットボール・卓球・ソフトボール・ドッジボール・フットサル)に加えて、多種混合競技と呼ばれる新種目が加わりました。



多種混合競技は9つの種目から構成される競技で、1チーム4人で行います。9つの種目とは障害物リレー、大縄跳び、玉入れ、玉ひろい、○×クイズ、借り人リレー、4人5脚、綱引き、対抗リレーの9種目であり、誰もが楽しんで参加できる種目のため、参加者は夢中にな

り大盛り上がりでした。

秋晴れの下、2日間で教職員も含む、のべ729名が参加しました。

どの参加者もさわやかな汗を流し、充実した2日間を過ごしたようです。

写真提供：アルバム委員会

競 技

多種混合競技

- チーム数 10 チーム
- 参加人数 45 名
- 順位
- 1 位 新しいフォルダー
- 2 位 ゴミ箱 .mp3
- 3 位 学生室

バスケットボール

- チーム数 12 チーム
- 参加人数 84 名
- 順位
- 1 位 A
- 2 位 じゃがいも 14
- 3 位 いちごぶりん

卓球

- チーム数 13 チーム
- 参加人数 30 名
- 順位
- 1 位 大同喰種
- 2 位 最強です。
- 3 位 ジャポニカ学習帳

ソフトボール

- チーム数 7 チーム
- 参加人数 78 名
- 順位
- 1 位 NYD
- 2 位 ポジハメベースたんず
- 3 位 THE TAKAHASHI

ドッジボール

- チーム数 6 チーム
- 参加人数 56 名
- 順位
- 1 位 負けたら退学 !!
- 2 位 YOLO
- 3 位 隠しフォルダー

フットサル

- チーム数 11 チーム
- 参加人数 74 名
- 順位
- 1 位 A
- 2 位 建築学科
- 3 位 いちまるくん

ミニゲーム

キックボーリング

- 参加人数 194 名

なんでも卓球

- 参加人数 48 名

ウォーターウォーズ

- 参加人数 17 名

第 53 回 錦杯学内レガッタ大会が開催されました

通算 53 回目となる本学伝統の「レガッタ大会」が 10 月 30 日(日)に行われました。

秋晴れの青空のもと、クラブの部から 9 チーム、一般の部から 6 チームが参加しました。ボートを漕いだ経験がない学生も多く、当初は戸惑いの表情を浮かべるチームもありましたが、少し慣れてくるとみんな真剣に楽しそうに漕いでいました。

5 人 1 組で漕ぐレガッタは、5 人の息をいかに

合わせるかが重要で、力任せに漕げばよいわけではありません。今回、クラブの部で優勝したのは吹奏楽団の女子学生チームで、他の体育会クラブの男子チームを押しよけたの優勝は見事でした。まさに息を合わせたチーム力の勝利と言えます。

まだレガッタに参加したことがない学生も来年こそは挑戦し、その魅力をぜひ体感してみてください。

写真提供：アルバム委員会

第53回大同大学錦杯レガッタ大会順位

クラブの部

- 1 位 sfz
- 2 位 イカ
- 3 位 テーブルゲーム研究会

エキシビジョンマッチ

- 1 位 漕艇部 OB
- 2 位 山田錦
- 3 位 sfz

一般の部

- 1 位 山田錦
- 2 位 学生室 with 筋肉室
- 3 位 こじまんち



吹奏楽団

地域イベントなどでの演奏に積極的に取り組んでいます

本学の吹奏楽団は地域のイベントなど、学内のみならず、学外での演奏に積極的に取り組んでいます。

9月23日(金)に特別養護老人ホーム「ゆうあいの里大同」で行った演奏会では、施設の方から「素晴らしい演奏を聞かせていただきまして感謝の気持ちでいっぱいでございます。普段生演奏に接する機会などなかなかないですが、学生さんの演奏は入居者の感動を誘うものでした。」とお言葉をいただきました。

もともとは上達するために、演奏する機会を貰えないかと交渉をして、イベントなどに出演していました。しかし、今となつてはさまざまな施設やイベントから演奏をしてくれないかと依頼が来るようになり、平均週1回は演奏会と呼ばれるほどになりました。

ホームページ : <http://www.daido-wo.com>
twitter : @DUWO_0401
Facebook : daidouniv.wo

吹奏楽団が現時点で演奏できる200曲の中から、イベントのシチュエーションや、来場するお客さんによって演奏する曲を決め、お客さんに楽しんで貰えるように工夫しています。また新しい曲を増やすため、技術を向上させるために日々練習を積んでいます。

3月10日(金)には、熱田文化小劇場にて、第31回定期演奏会を開催します。吹奏楽団の日頃の努力の集大成です。ぜひ、お越しください。また、その他イベントについては、随時、吹奏楽団のホームページやSNSで情報を発信しています。

〈団長からのコメント〉

大同大学吹奏楽団団長の吉野光汰です。今年度は部員が45人に増え毎年開催する定期演奏会をはじめ、地域での演奏など去年以上に精力的に活動しています。特に福祉施設での演奏依頼

が増え、大変よろこんでいただいております。このような活動をこれからも継続して行っていけるように、部員一同取り組んでまいります。



大同大学吹奏楽団
第31回定期演奏会

日時：平成 29 年 3 月 10 日(金) 16:30 開場、17:00 開演
場所：熱田文化小劇場
入場料：200 円(前売り)・300 円(当日)

第1部 関下の桜樹
第2部 アンサンブルステージ
第3部 ミュージカル『レ・ミゼラブル』より

レーシングカート部

第21回全日本学生カート選手権で総合優勝!前人未踏の3連覇!

8月21日(日)、第21回全日本学生カート選手権が新潟県のスピードパーク新潟で開催され、本学のレーシングカート部が総合優勝しました。一昨年、昨年に引き続きの総合優勝で、前人未踏の3連覇となりました。また本学レーシングカート部の総合優勝は通算5回目となります。

全日本学生カート選手権は、学生カーターたちの年に一度のビッグイベントで、今年は全国各地から11大学の学生が集まり開催され、本学は8年連続20回目の出場となりました。

この選手権はSS、FD、TIA、の3つのクラ

スがあり、各クラスの上位入賞者にポイントが振り分けられる仕組み。本学は3つ全てのクラスに参加し、偏りなく各クラスでポイントを積み重ね、見事総合優勝を手に入れました。

ドライバーを務めたレーシングカート部の



柴原耀介さんは、「3連覇することができ大変光栄です。来年は愛知工業大学のホームコースで開催される予定なので、苦戦が予想されますが、4連覇できるよう頑張ります!」と来年の抱負を語っていました。



フィギュアスケート研究会 中川真佑さん

中部インカレ3位!西日本インカレで6位に入賞!

本学のフィギュアスケート研究会の中川真佑さんが、10月8日(土)、9日(日)に邦和スポーツランドで開催された第46回中部学生氷上競技大会フィギュア競技Jr.選手権クラス女子の部で3位に入賞しました。また、10月22日(土)、23日(日)に大阪府立臨海スポーツセンターで開催された第10回西日本学生フィギュアスケート選手権大会で女子Bクラスの部で6位に入

賞し、全日本インカレに出場が決定しました!

フィギュアスケートはできる技の種類などによって級が分かれており、西日本インカレでのBクラスは、中川さんと同じ6級の選手とひとつ下の級である5級の選手で構成され、42名がエントリーしました。

全日本インカレは、2017年1月6日(金)～9日(月)に苫小牧市ハイランドスポーツセンター

等で開催されます。

フィギュアスケート研究会は今年度結成され、初年度から全日本インカレに出場します。これからの活躍にも期待しましょう。





ロボット研究部

8/7(日)ロボファイト 17 ランブル部門 ORC で優勝

8月7日(日)、関西最大級の二足歩行ロボット格闘競技会「ロボファイト17」がOCT(大阪工業技術専門学校)で開催され、本学ロボット研究部3年の伊藤健太さん、齋藤大亮さん、岡部陸さんのチームのロボ「スモーク・モンキー」がランブル部門のORCで優勝しました!

ORCとは、オーバー レギュレーション クラスの略で、スタンダード レギュレーションの規定

を超える仕様をもった2足歩行ロボットで、至近のROBO-ONE本戦仕様に準じたロボットで行われ、発射体ルールも採用されます。

スタンダードレギュレーションとは、今回の競技会では1.8kg級の規定で、身長40cm以下、手等を伸ばしたときの最大幅60cm以下などのさまざまな制限を示します。各部門でダウンを奪い合う白熱した試合が繰り広げられました。



▲左から順に伊藤健太さん、岡部陸さん、齋藤大亮さん

9/11(日)第21回小型ロボット競技会 "BRAVE" で1位～4位まで独占入賞!

9月11日(日)、神奈川県にある川崎市産業振興会館1階ホールにて開催された「第21回小型ロボット競技会 "BRAVE"」において、ロボット研究部の学生が1位～4位を独占入賞しました。

小型ロボット競技会 "BRAVE" は多用途化するロボットの進化を目的として、不整地・極地で活

動可能な高性能ロボットを生み出す基礎を世界に築くべく、生まれたロボット競技大会です。

機体サイズがA4判内、使用可能モーターは小型ホビー向けのモーター (130 サイズ・260 サイズ) の無線ロボットによる競技で、最大4機によるバトルロイヤルと凹凸のあるフィールド上

での対戦をします。

この大会でロボット研究部3年 澤直人さんが優勝、3年 高瀬大輝さんが準優勝、2年 宮下慎之介さんが3位、2年 十河直矢さんが4位に入賞し、1～4位まで本学が独占するかたちとなりました。



▲優勝:澤直人さん



▲準優勝:高瀬大輝さん



▲3位:宮下慎之介さん



▲4位:十河直矢さん

城所裕真さん(大学院工学研究科 機械工学専攻 宮本研究室)

サステナブルトライボロジー会議 2016 で優秀ポスター賞を受賞

10月31日(月)～11月2日(水)、奄美大島で行われたサステナブルトライボロジー会議 2016 で、宮本研究室の大学院生 城所裕真さんが、発表等が優れた学生に与えられる「優秀ポスター賞」を受賞しました。

発表題目は「RF プラズマによる新しい窒化処理法の開発」です。従来産業では、直流グロー放電を用いてプラズマ窒化処理を行って

いますが、高真空下での処理が困難なことや、絶縁物が電極に付着することで放電が不安定になるなどの問題点が挙げられています。

本研究では、被処理物をプラズマ生成機構から独立させ、高周波を用いてプラズマを発生させる新しい窒化処理方法を提案し、その機械的特性およびトライボロジー特性を調べ、発表しました。



ロボット研究部

イオンモール新瑞橋のイベントで ロボットのデモンストレーションを行いました

10月28日(金)に、イオンモール新瑞橋がリニューアルオープンした際に開催されたイベントで、本学のロボット研究部が二足歩行ロボットのデモンストレーションを行いました。

イベントの2日間で約200人ものお客さんがコーナーを訪れ、ロボットの操作を体験しました。ロボットは子どもにも安全に楽しんでもらえるようにカラフルで、普段学生が競技で使うロボットとは異なるものを用意しました。



第12回トラックと交通安全・環境フェアで ロボット操縦体験コーナーを運営しました

10月2日(日)に豊田スタジアムにて行われた、第12回トラックと交通安全・環境フェアで、本学のロボット研究部がロボット操縦体験コーナーの運営をしました。

トラックと交通安全・環境フェアは愛知県トラック協会が主催しており、交通安全やエコなどが楽しく学べるイベントです。当日はロボットを操作できる体験コーナーが設けられ、本学の学生が訪れた人に操作の方法を教

えたり、ロボットの説明をしたりと、来た人を楽しませました。



新刊紹介

『連邦制の逆説?—効果的な統治制度か—』出版に携わりました

共編著: 柳原克行准教授(教養部)

9月にナカニシヤ出版から出版された『連邦制の逆説?—効果的な統治制度か—』の編集・執筆に柳原准教授が携わりました。

この本では、連邦制は対立と分離をもたらすのか、対立を解消し統合をもたらすのか。統合と分離という二つのベクトルに注目し、連邦制の意義を問う内容になっています。

出版社: ナカニシヤ出版
発売日: 2016年09月20日
サイズ: A5
ページ数: 330
IS BN: 9784779511059
定価: 本体 3,800円(税別)

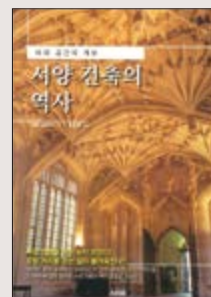


『図説 西洋建築の歴史—美と空間の系譜—』韓国語版 佐藤達生教授(工学部 建築学科 建築専攻/インテリアデザイン専攻)

初版(2005年8月出版)が好評につき2014年に増補新装版として出版された『図説 西洋建築の歴史—美と空間の系譜—』が韓国語版で出版されました。

ギリシア、ローマ、ロマネスク、ゴシック、バロック。2500年に及ぶ壮大な西洋建築の歴史を読みとく、決定版ガイド。河出書房新社「ふくろうの本」シリーズ。日本語版は同シリーズのベストセラーに入っており、全国学校図書館協議会選定図書にも指定されています。

日本語版詳細
出版社: 河出書房新社
発売日: 2005年8月30日
初版発行
2014年8月20日
増補新装版初版印刷
2014年8月30日
増補新装版初版発行
ページ数: 148
IS BN: 978-4-309-76220-3
定価: 本体 1,800円(税別)





命をつなぐ PROJECT 学生実行委員会
大東憲二研究室(情報学部 総合情報学科 経営情報専攻)

9/17(土)環境デーなごやにブースを出展しました

9月17日(土)、久屋大通公園で開催された「環境デーなごや 2016 〜一人ひとりの ECO が未来を変える〜」に大東研究室の学生と本学学生が多く参加している命をつなぐ PROJECT 学生実行委員会がブース出展しました。

環境デーなごやは、市民・事業者・行政の協

働のもと、よりよい環境づくりに向けて具体的な行動を実践する契機とする行事として、2000年からスタート。それぞれの地域で行う地域行事と成果を持ち寄り発表、交流、学びあう中央行事を毎年開催しています。

エンゼル広場の会場では、「みんなつながる

環境ひろば〜世代やジャンルを超えた出会いと学び〜」の題に合った69ブースが、企業や大学、自治体から出展されました。大東研究室は「リサイクルフラワーボトル・風車工房」、命をつなぐ PROJECT 学生実行委員会は「Let's 竹クラフト」を出展しました。

卒業生の活躍

山口智也さん(工学部 建築学科 卒業生) 施工に携わった建造物が 雑誌に掲載されました

工学部 建築学科卒業生の山口智也さんが施工に携わった「YKK AP R&D センター」が雑誌「新建築」10月号に掲載されました。

山口さんは本学を卒業後、株式会社大林組に就職。今回の掲載には大林組の建築担当として紹介されています。

「新建築」は建築デザイン専門の月刊誌で、建築家の作品発表の場としても知られており、山口さんも学生時代から愛読していたもの。

大林組へは、毎年のように本学から就職し、新人研修の講師に抜擢されたりと、多くの卒業生が活躍しています。山口さん



は憧れの雑誌への掲載に、「苦労したこともあったけど、頑張って良かったです。」と指導教員であった萩原伸幸教授(工学部 建築学科)へ報告し、充実感をもって施工管理という仕事に取り組んでいる様子がみられました。

小関在さん(情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻 卒業生) 11/2(水)G棟2階に学生ホールが新たに オープン!卒業生がプロデュースしました!

11月2日(水)、G棟2階に学生ホールが新たにオープンしました。また、この学生ホールのプロデュースを情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻卒業生で、現在、株式会社篠田商会に務めている小関在さんが手掛けました。

滝春校舎と白水校舎、2つのキャンパスを合わせてちょうど中心の位置にあるG棟を「学科・部活・サークルなどの所属にとらわれずに学生が集える場所にしたい」、「もっとキャンパスで過ごす時間を増やしてほしい」という思いから、コンセプトを練っていきました。卒業生ならではの本学への

想いや、学生時代に感じていたことを生かして、在学生にとって過ごしやすい空間にされています。

机や椅子一つ一つにこだわり、可動式の机やホワイトボード、リクライニングや座り方を自由に変えられる椅子、また、荷物を置くことで椅子や机のスペースが減ってしまうように、それぞれ荷物をかけられる機能の付いた椅子・机を用いています。

オープン初日から、たくさんの学生が訪れ、友達同士で話をしたり、居心地の良さから長時間ゆったりと時間を過ごしたりしている様子が見られました。



▲学生ホールのプロデュースをした小関 在さん

澤岡昭学長

愛知学院大学のモーニング・セミナーで講師を務めました

8月9日(火)、愛知学院大学にてモーニング・セミナーが開講され、澤岡昭学長が講師を務めました。

このセミナーは朝の時間を活用した市民向け講座で、当日は集まった受講生約350人の

前で、澤岡学長が“「宇宙ステーションのトイレは介護未来の福音!」～宇宙のトイレはどんなっているの?～」と題して講演しました。

講演の中ではスペースシャトルや国際宇宙ステーションでのトイレ問題や宇宙空間専用

の特殊なトイレの技術についての紹介、これらの技術が将来、介護の場面で活用できるのではないかという展望が語られました。

また、このセミナーの様子は8月14日付の中日新聞で取り上げられました。

高田健教授(工学部 機械工学科)

日本金属学会論文賞を受賞しました

9月21日(水)、大阪大学で開催された日本金属学会にて、高田教授が第64回日本金属学会論文賞を受賞しました。

この論文賞は、前年1ヵ年の会誌、欧文誌に掲載された各部門の論文の中で、特に優秀な論文に対して授賞するものです。今回、日本金属学会誌79巻8号に掲載された高田教授の「Mg-Si クラスタ形成によるAl-Mg-Si 合金

の強度と延性の向上およびその機構」が選ばれました。

工業の世界では、金属の強度が大きく、成形しやすい材料が望まれ、多くの研究者がこの問題に取り組んでいます。

論文の研究では、アルミニウムにマグネシウム(Mg)原子とシリコン(Si)原子を添加したアルミニウム合金を使用しました。合金内

部にこれらの添加原子のミクロな集合体(クラスタ)を形成させて、それを粗大化させれば、金属の強度が大きく、成形しやすくなることが分かり、さらに合金を成形したとき、発生する転位と呼ばれる合金内のひずみにより、このクラスタはバラバラに分解することが分かりました。

高田健教授、西脇武志教授(工学部 機械工学科)

軽金属学会東海支部プレス加工部会第9回懇談会で講演しました

11月22日(火)に岐阜大学サテライトキャンパスで開催された軽金属学会東海支部プレス加工部会第9回懇談会「特殊加工および加工機械の最前線」で高田教授と西脇教授が講演を行いました。

第9回懇談会では、特殊加工技術シーズと加工機械最新情報を把握し、今後の加工技術開発の方向性について議論することを目的としています。高田教授が「温間成形技術の現状と今後の展開」について、西脇教授が「ア

ルミニウム合金板の部分軟化成形法」について講演を行いました。

なお、西脇教授は軽金属学会東海支部の理事をしており、プレス加工部会の幹事も務めています。

一般社団法人 軽金属学会ホームページ: <http://www.jilm.or.jp/society/>

西脇武志教授(工学部 機械工学科)

11/12(土)、13(日)本学ゴビーホールにて第30期非線形CAE勉強会を開催しました

11月12日(土)、13日(日)にNPO法人非線形CAE協会の第30期非線形CAE勉強会が本学のゴビーホールで開催されました。また、西脇教授が運営委員として、開催に携わりました。

非線形CAE協会では、実務への適用を念

頭に、非線形シミュレーションに関する理論と技術を学ぶ場として、非線形CAE勉強会を開催しています。本会は前半、後半合わせて4日間開催され、今回、前半の2日間が本学のゴビーホールで開催されました。

第30期では、第29期に引き続き「実験・

計測とシミュレーション」について考えます。特に今回は、「クロスアプローチ」の部分に焦点を絞りました。ゴビーホールでは、固体力学、固体力学演習についての勉強会が行われました。

坪井涼准教授(工学部 機械工学科)

「サステナブルトライボロジー会議2016」で 実行委員を務めました

10月31日(月)～11月2日(水)、日本トライボロジー学会の6つの研究会が合同で開催する「サステナブルトライボロジー会議2016」が奄美大島で行われ、その実行委員を坪井准教授が務めました。

内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム

ラムでディレクターやグループリーダーを務めた方の基調講演、指名講演、ポスターセッションなどが盛況に行われました。

またポスターセッションには、本学から工学部 機械工学科の宮本潤示講師と工学研究科 機械工学専攻の大学院生 2名が参加しまし

た。宮本講師が「大気圧中における誘電体バリア放電を用いた窒化処理法に関する研究」、城所 裕真さんが「RF プラズマによる新しい窒化処理法の開発」、児玉 真幸さんが「プラズマを用いた切削油の滅菌法の開発ー潤滑性能に与える影響ー」と題して発表しました。

井原禎貴准教授(工学部 総合機械工学科)

第10回自動車エンジニアレベル認定で シニアエンジニアとして認定されました

井原准教授が、第10回自動車エンジニアレベル認定でシニアエンジニアとして公益財団法人日本自動車技術会より認定されました。

自動車エンジニアレベル認定は、日本自動車技術会の会員が自動車に関わる継続能力開発を行う上での目標となるもので、日本自動車技術会が認定する制度です。継続能力開発

(CPD)プログラムによる能力開発活動の実施における自己研鑽実績と、企業や大学などにおける実務経験を総合的に審査されます。

自動車全般の基礎知識の習得に加え少なくとも1つの専門性を有し、実務に関する経験・実績があることなど、それぞれの要件に応じてポイント化して、レベルにあったポイントを取得

することで認定され、これまでに自動車産業界のエンジニアや、大学教員の中から100人程度が認定されています。

井原准教授の場合は、学会発表と学生フォーミュラ活動の指導が主な取得ポイントとなり、認定に至りました。

公益財団法人日本自動車技術会ホームページ内

技術者能力開発支援システム: <https://tech.jsae.or.jp/rireki/menu.html>

日本表面科学会中部支部長 堀尾吉巳教授(工学部 電気電子工学科)

7/30(土)市民講座「やさしい表面科学」を開催しました

7月30日(土)名古屋工業大学にて、堀尾教授が支部長を務める日本表面科学会中部支部主催の市民講座「やさしい表面科学」を開催しました。

日本表面科学会中部支部では、毎年、夏に市民講座を開催しており、今回のテーマは「昔のカメラ、未来のカメラー表面科学で学

ぶイメージング(撮像)技術ー」。私たちの身の回りには様々なカメラがあります。家庭で使うデジカメ、防犯カメラ、胃カメラ、最近では、空港などで透視して危険物を発見するカメラなど、表面科学はそのような種々のカメラ技術で重要な役割を果たしています。

この講座では、江戸時代の写真技術であ

る湿版写真の講演の後に、当時と同じ薬液と機材を用いた撮影・現像の実演を行いました。また、デジタルカメラの原理や写真撮影のコツを学び、最先端の胃カメラやミリ波カメラなどの未来のカメラについては開発担当の研究者から説明を受け、将来の夢を描きました。

山田靖教授(工学部 電気電子工学科)

隔月刊誌「エネルギーデバイス」で特集の執筆を担当しました

技術情報協会が発刊している隔月刊誌「エネルギーデバイス」2016年6月号で特集の執筆を、山田教授が担当しました。

担当したのは、「特集1 SiCパワーデバイスの高耐熱接合技術と材料開発」のうちの「パ

ワー半導体用Cuナノ粒子結合技術とその信頼性」。

SiC等のワイドバンドギャップ半導体の200℃以上の高温動作を可能とする接合技術では、Ag系の焼結材料の検討が多い現状で

あるが、Agはやや高価であり、またエレクトロマイグレーションの懸念があることから、Ag系と同様に高熱伝導性、低電気抵抗性を有するCu系の接合技術について、主にその信頼性に関して述べています。

山田靖教授(工学部 電気電子工学科)

技術情報協会のセミナーで講師を務めました

5月31日(火)に東京にて開催された、技術情報協会のセミナー「金属ナノ粒子接合技術の開発と接合信頼性向上」で、山田教授が講師を務めました。

セミナーは、「1. 銅及び銀・同混合ナノ粒子を用いた接合技術」「2. パワーデバイスの

高温動作を可能にするAg ナノ粒子の焼結接合技術」「3. パワー半導体の接合技術と信頼性評価」の3テーマで構成され、山田教授はそのうちの「3. パワー半導体の接合技術と信頼性評価」を担当しました。信頼性評価の方法そのものも検討されている状況で

これから変わっていく可能性も高いとし、その中でも、受け身の姿勢ではなくチャレン精神で取り組んだ結果得られた、新しい接合技術の信頼性評価を中心に説明がなされました。

不破勝彦教授(情報学部 情報システム学科)

平成28年電子・情報・システム部門誌優秀論文賞を受賞

一般社団法人電気学会が発行している『電気学会論文誌C』に平成24年12月号で掲載された不破教授らの論文「計測不可能な入力の推定機能をもつ最小次元状態推定器

による外乱抑制制御」が、平成28年電子・情報・システム部門誌優秀論文賞を受賞しました。

電子・情報・システム部門表彰規程に基

づき、当該部門役員会で審議され、受賞に至りました。

表彰式は2016年9月1日(木)に、神戸大学百年記念館で行われました。

上岡和弘教授(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

名古屋市社会福祉協議会のブランディング活動のアドバイザーに任命されました

本学の上岡教授が名古屋市社会福祉協議会のブランディング活動のアドバイザーに任命されました。

名古屋市社会福祉協議会では、ブランディング活動に際し協議会内横断型のプロジェクトチームを組織しており、上岡教授はその外部アドバイザーとして登録されています。

活動内容は、インナー(職員)やアウトター(高齢者などの対象者、行政やNPOなどの関係者)と

の協働を経て、ブランドメッセージ作りや広報計画の策定・実施に対する指導です。

9月20日(火)に名古屋市社会福祉協議会北区総合庁舎内で行われた『第3回広報活動に関する専門チームWS』として、上記インナーとアウトターに対し実施した、アンケート調査を元に、コアバリュー抽出WSの講師やファシリテートを行いました。

今後、2016年度中にコアバリュー策定からの



メッセージ化、2017年度はコミュニケーション活動を実施する予定です。

大東憲二教授(情報学部 総合情報学科 経営情報専攻)

鷲見哲也准教授(工学部 建築学部 土木・環境専攻)

「なごや環境大学共育講座」で公開講座を担当しました

中川生涯学習センターで開催された「なごや環境大学共育講座」で、大東教授と鷲見准教授が公開講座を担当しました。

大東教授は、10月21日(金)に開催された、名古屋市住宅都市局・名古屋港管理組合主催の定期講座『なごや環境大学共育講座』中川運河再生と水の環境復活の第一回「なぜ水の環境復活が必要なのか?～目指したい名古屋の姿とは?～」を担当しました。

平成24年に「中川運河再生計画」、平成27年に「水の環境復活2050 なごや戦略第2期実行

計画」が策定され、うるおいや憩い、にぎわいをもたらす中川運河に向けての取り組みが進められています。中川運河の現状を知るとともに、再生に向けた取り組みを学び、自分には何ができるかを考え、水循環機能の回復、なぜ人にも生き物にも優しい水辺や緑があるまちづくりを目指していく必要があるのか話がなされました。

鷲見准教授は、10月27日(木)に開催された、定期講座『防災・減災に向けて備える～過去から学び、今できることを知る～』の第二回「東海豪雨から学び、備えの意味を考える」を担当しました。

2000年東海豪雨、昨年の鬼怒川の災害など、過去の被害を振り返り、中川区の多く複雑な河川・排水の実情、豪雨災害の特徴、避難対応などが可能な時間の特徴が詳しく解説されました。

防災・減災に向けて、行政の限界を知ること、自助・共助でできる備えとして、ハザードマップなどで地域を知ること、いざという時の情報源を知ること、などから始めたいと話がなされました。特に身近な中川区にフォーカスした話が良かったと好評でした。

岡田心准教授(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)

6/19(日)TBSテレビ「ワザビト」に出演しました

6月19日(日)、TBSテレビ「ワザビト〜bridge of dreams〜」(毎週日曜21:54〜、関東のみの放送)に岡田准教授が出演しました。

「ワザビト〜bridge of dreams〜」では、日本の技術を紹介すると同時に、開発した人々の人間関係に注目。技術を生み出す上で、エンジンのように夢への推進力を与えてくれた存在(bridge of dreams)と、日本のものづくりがもたらす、新しい未来を紹介しています。

番組で「ワザビト」(職人)として紹介されたのは、以前、本学のプロダクトデザイン専攻と枅×アートプロジェクトでコラボした大橋量

器(岐阜県大垣市)の大橋博行さん。枅のすべての面を手作業で削り、職人の微妙な力加減で均一に削り上げる作業によって、工房に大量の薄いヒノキが落ちている状態になっていました。

その落ちていた薄いヒノキの美しさに魅了された岡田准教授が「bridge of dreams」として登場。薄いヒノキを使った加湿器を考案したことが紹介されました。ヨットの形のような加湿器はヒノキに吸い上げられた水分が蒸発し、周囲をヒノキの香りとともに加湿します。

大橋さんは、番組の最後に「どんどん新しい

ものを生み出して、みんなに次の枅の使い方とか、みんなに使ってもらうシーンを提案していきたい。」と話しました。



▲本学での取材の様子

岩橋尊嗣教授(情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻)

7/18(月)中京テレビ「キャッチ！」で 体のおいについて解説しました

7月18日(月)、中京テレビ『キャッチ!』(毎週月〜金、15:50〜放送)で、岩橋教授が特集コーナー『夏に気になる「体のおい」』に出演しました。

番組では、梅雨明けの時期から夏本番にかけて気になりだす「体のおい」について、NG行動と対策について紹介。岩橋教授は、においがなぜ発生するのか、においを軽減するにはどうすべきかを解説しました。

取材は本学で行われ、かおりデザイン専攻の紹介とともに、学生の実習の様子も放映されました。



◀▲本学での取材の様子

『日経interesse』11月号の特集記事を監修しました

岩橋教授(情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻)が『日経 interesse』11月号の特集記事「おうちの香りを整えよう」の監修を務めました。

よそのお宅を訪ねた時、意外と気になるのがその家独特のにおい。時には自分の家で帰宅時などに気になることがあります。住まいの

においの原因は1つではなく、それぞれの原因と性質を把握して、それに合わせた適切な処理が必要となります。

記事では、来客が増える年末年始に備えて、おうちの気になる“におい”を対策するためのポイントを掲載しています。

特に、岩橋教授は不快物質の消臭対策を

研究テーマとしており、効果的な消臭方法を、キッチンやトイレなどそれぞれの部屋が持つ特徴と原因を踏まえながら分かりやすく紹介しています。



新任教員紹介 工学部 機械工学科 西脇武志教授

鉄鋼メーカー、自治体の研究所に勤務し、プレス加工等の塑性加工分野の研究活動や企業への技術教育に携わってきました。塑性加工は古くからある技術ですが、未だに重要なものづくりの基盤技術分野です。その高度化を目指し、コンピュータシミュレーション(CAE)の産業応用にも取り組んでいます。東海地方が製造業の盛んな地域であり続けるために、塑性加工とCAEの2つの軸を通じて地域に貢献できる人材を育成したいと考えています。



安木大河さん、深尾知仁さん、柁佑太さん(大学院 工学研究科 機械工学専攻 井上研究室)

国際会議(2016 IC3MT)で学術講演を行いました



10月7日(金)～11日(火)に島根県松江市で開催された加工材料と機械技術に関する

国際会議『2016 International Conference on Machining, Materials and Mechanical Technologies (2016 IC3MT)』で井上研究室の大学院生の安木さん、深尾さん、柁さんが学術講演を行いました。

安木さんは「Hole Sharpe Precision in CFRP Material with a Single Crystal Diamond Array Type Reamer Tool」、深尾さんは「High Aspect Ratio Rib Shape

Processing of Carbon Material for Electrical Discharge Machining Molds」、柁さんは「Deep Hole Machining with A Small Diameter Drill and Ultrasonic Vibration」と題して、それぞれ英語で学術講演を行いました。

この学会では日本、台湾、中国、イラク、USA、ベトナム、ウクライナなど世界各国からの総勢300名以上が集まりました。

山田靖教授(工学部 電気電子工学科)
三浦大貴さん(大学院 工学研究科 電気・電子工学専攻)

国際学会ESREF2016で論文を発表しました

9月19日(月)～22日(木)にドイツ(Halle)で開催された国際学会『27th EUROPEAN SYMPOSIUM ON RELIABILITY OF ELECTRON DEVICES, FAILURE PHYSICS AND ANALYSIS』で、山田教授と大学院生の三浦大貴さんがともに1件ずつ、論文の発表を行いました。

国際学会 ESREF2016 ホームページ: <http://conference.vde.com/esref-2016/Pages/default.aspx>

三浦さんは共著者を代表して、『Power cycle reliability of Cu nanoparticle joints with mismatched coefficients of thermal expansion』を、山田教授は、『Novel heatsink for power semiconductor module using high thermal conductivity graphite』を発表しました。



不破勝彦教授(情報学部 情報システム学科)
田中智也さん(大学院 情報学研究科 情報学専攻 修了生)

共同論文が12月号の『電気学会論文誌C』に掲載されました

一般社団法人電気学会が発行している『電気学会論文誌C(電子・情報・システム部門誌)』に、不破教授と2016年3月に大学院情報学研究科修士課程情報学専攻を修了した田中さんらが投稿した論文「デュアルオ

ブザーバを用いた強安定化制御器の一考察」が平成28年12月号に掲載されました。

田中さんは在学中『計測自動制御学会中部支部第157回教育工学研究会で学生優秀発表賞』、『平成27年度電気・電子・情報関係

学会東海支部連合大会で連合大会奨励賞、『大同大学学長賞』を受賞しており、それらの研究成果をまとめた論文として今回の掲載となりました。

情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻

展覧会「パターンの可能性ーグラフィックデザインの役割」で受賞しました

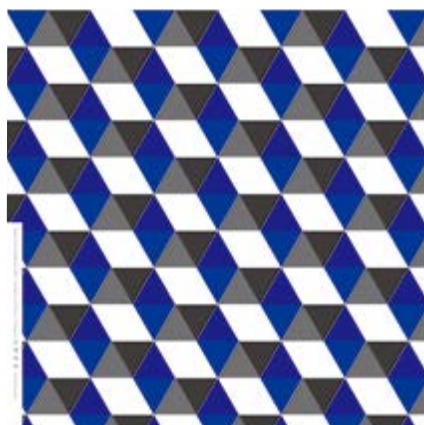
公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会<JAGDA>愛知地区が主催する展覧会「パターンの可能性ーグラフィックデザインの役割」が10月4日(火)～9日(日)に開催され、メディアデザイン専攻の学生5名が入賞しました。

グラフィックの枠を超え、あらゆるプロダクトで活用されるパターン(模様)にスポットをあて、JAGDA愛知会員と愛知県内のデザイン系大学・専門学校の学生の自由な発想で「これ

までにない新しいパターン」を生み出しました。

受賞学生

渡邊良重賞	庄野 祥章さん
鬼頭印刷株賞	川端 俊広さん
個人賞	鈴木 智子さん
	近藤 輝一さん
	広瀬 ディエゴさん



▲渡邊良重賞を受賞した庄野 祥章さんの作品

情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻

第7回ポスターグランプリで入賞・入選しました



▲名古屋市教育委員会賞を受賞した坂井 愛貴さんの作品

愛知県印刷工業組合をはじめとする愛知県・岐阜県・三重県・石川県・富山県の印刷産業界とデザイン関連業界が実施する『第7回ポスターグランプリ』でメディア

デザイン専攻の学生8名が入賞・入選しました。

このグランプリは、印刷産業界とデザイン関連業界のさらなる発展を目指して開催されたもので、今回は「VS」という課題でクリエイター一人ひとりが自由な発想で作品を作り上げました。

入賞・入選した作品は、11月22日(火)～27日(日)の間、愛知県美術館ギャラリーにて開催された『入賞・入選作品展』で展示され、11月23日(水)には入賞・入選者に対して表彰式も行われました。

入賞・入選学生

名古屋市教育委員会賞

坂井 愛貴 さん

㈱キングコーポレーション賞

水鳥 加奈子さん

飯島製本㈱賞

二村 祐衣 さん

入 選

木村 央 さん

多田 佳純 さん

近藤 一輝 さん

棚橋 翔之 さん

三浦 雄一朗さん

杉本幸雄研究室(情報学部 情報デザイン学科 メディアデザイン専攻)

南医療生協で「いのちの輪・学生プロジェクト」を開催しました

10月8日(土)、杉本研究室のゼミ生と名古屋短期大学の学生が合同で「いのちの輪・学生プロジェクト」を総合病院 南生協病院で開催しました。

杉本研究室では、メディアデザイン専攻の杉本幸雄教授監督のドキュメンタリー映画「四つの空 いのちにありがとう」と杉本研究室の学生たちの制作による短編映画「ふたりの未来」を上映しました。

名古屋短期大学の学生たち



は、映画出演者の小出朋子さんとのトークや、『願いの木』と称されたツリーに参加者たちがメッセージを書き、それを南生協病院の玄関に飾る企画を実施しました。

初の合同企画でなかなかうまくいかないこともありましたが、当日は60名を超える参加者が集まり、学生たちもひとつのことを成し遂げた達成感を味わったようです。



いのちの輪 ～学生プロジェクト～ PV 生まれてきてくれてありがとう編 : <https://www.youtube.com/watch?v=dOQ6qbJu1pw>

いのちの輪 ～学生プロジェクト～ PV 自分を愛してみよう編 : <https://www.youtube.com/watch?v=n0H-aYeVPa0>

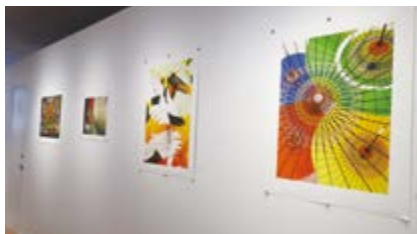
情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻

10/14(金)～11/3(木)、NYで展覧会を開催しました



10月14日(金)～11月3日(木)まで、ニューヨークのソーホーにある MAX Gallery にて、プロダクトデザイン専攻の有志学生による展覧会が開催されました。

展覧会のテーマは「J-TALES」。日本の民話



を題材にした CG 作品です。日本の四季や説話、紋様などをモチーフに切り絵やデジタルプリントで表現した現代版「大和絵」の世界を展示了。また、大判作品の販売も行い、収益は全額、ニューヨーク日系人会の「J A A 九

州地震救援基金」に寄付されます。

ギャラリーのオーナーからは、「プロダクトデザイナーの視点から見たグラフィックデザインはいわゆる従来のグラフィックの感覚と違う立体的な感覚を取り入れ、たいへん見応えのあるものになりました。今後の健闘をお祈りいたします。」とのお言葉をいただきました。

この展示会の様子は、10月8日(土)に「週刊NY生活」、10月7日(日)に「よみタイム」でも紹介され、10月15日(土)に行われたレセプションには多くの人が訪れました。

デジタル版「週刊 NY 生活」 Vol.603-P12 掲載 : <http://www.nyseikatsu.com/editions/603/html5/index.html>

デジタル版「よみタイム」 Vol.287-P19 掲載 : <http://www.yomitime.com/digital/287/index.html>

NY MAX ギャラリー「J-TALES」 : <http://www.artslant.com/ny/events/show/429396-j-tales>

情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻

名古屋市南区社会福祉協議会主催「高齢者はつらつ長寿推進事業」で「かおりに関する講話」と「バスソルト・消臭剤づくり体験」を担当しました

6月28日(火)に名古屋市南区社会福祉協議会が市からの委託を受けて実施している「高齢者はつらつ長寿推進事業」が開催され、本学 かおりデザイン専攻の学生5名が「かおりに関する講話」と「バスソルト・消臭剤づくり体験」の講師を担当しました。

「かおりに関する講話」では、かおりデザイン専攻で学んでいるにのびのびの発生・対策についての発表をした後、実際ににおいを嗅ぎながら消臭のしぐさを体験してもらいました。

また「バスソルト・消臭剤づくり体験」では、作り方や使用方法を説明し、楽しみながら一人ずつバ

スソルトと消臭剤づくりを体験してもらいました。



かおりデザイン専攻 学生ブログ：http://blog.livedoor.jp/daido_kaori/

廣瀬正幸さん(工学研究科 修士課程 都市環境デザイン学専攻)
嶋田真奈さん(情報学部 総合情報学科 かおりデザイン専攻)

夏休み こども食育教室で講師を務めました

8月9日(火)、名古屋市 南保健所で地域の小学生と保護者の方を対象に、「夏休み こども食育教室」へ食べものとかおりの関係を知ろう！～」が開催されました。

この教室で、大学院生の廣瀬さんと学部生の嶋田さんが課外授業の講師を務めました。

授業では「おいしさのふしぎ!」と題し、かおりと味覚の仕組みや蕎麦をすすって食べる理由を分

かりやすく説明しました。授業の後には、蕎麦打ちの見学会と試食会があり、生徒の皆さんは課外授業で習ったことを思い出しながら蕎麦のかおりを楽しみました。

横井健二研究室(情報学部 情報デザイン学科 プロダクトデザイン専攻)

卒業研究で取り組んだ作品が壁紙として商品化！実際に使用されています！

横井研究室では、障がい福祉サービス事業所支援に取り組んでおり、障がい福祉サービス事業所での制作物の検討とイメージアップ(ブランディング)や、恵那市明智町の市障がい福祉サービス事業所「明智ひとつばたこ」と協力して、利用者の版画などを取り入れた絵はがきの製作・販売に2014年より継続して取り組んでいます。

その取り組みで生まれたアート作品を「心いっぱい、てづくり展」として、3月～5月まで中川区にある「カフェ & デリ モナミ」で展示した際

に、偶然訪れた 株式会社アサブリホールディングスの社長の目にとまり、アート作品を壁紙のデザインとして商品化することになりました。

本学 F 棟の F0202 実験室にも実際に貼られ



▲株式会社 近藤印刷

ています。また、他の卒業研究でお世話になっている、株式会社 近藤印刷の壁紙としても使用されています。ダイナミックでありながらも、手作りアートの温かさも感じられる素敵な壁紙です。



▲本学F0202実験室

壁紙・施工等についての詳細・お問合わせはこちら「カベラボ」：<http://kabelab.jp/#top>

情報学部 総合情報学科 経営情報専攻

平成28年度 海外事情1(アメリカ短期留学)報告会を開催しました

10月26日(水)本学で、『海外事情1(アメリカ短期留学)報告会』が開催されました。8月11日(木)～9月6日(火)まで、科目「海外事情1」の一環として、経営情報専攻の学生がアメリカ合衆国オレゴン州のオレゴン州立大学に短期留

学しました。今回の報告会では、そのアメリカ短期留学の概要説明や学生のグループ課題、個人課題の報告や、記録映像の上映もなされました。

留学中の学生のブログは本学ホームページよりご覧いただけます。

短期留学ブログ：<http://www.daido-news.jp/blog/>





平成28年度 韓山師範学院短期留学報告会を開催しました

10月26日(水)、本学で中国・韓山師範学院に短期留学した学生による報告会が開催されました。

学生たちは、9月2日(金)～16日(金)までの2週間、中国広東省・潮州市にある韓山師範学院へ短期留学し、中国文化に関する講義

や実技指導を受けたり、市内見学や工場見学を行ったりと、中国を肌で感じてきました。

報告会では、4班に分かれた参加学生がそれぞれ中国(潮州)の食文化、産業、気候など、現地で学んだ講義の内容や自分たちで調べたこと、教わった太極拳や中国画を発表しました。

参加した多くの学生が「実際の中国を見て、日本で報道されている中国が全てではないことがわかり、見識を広めることができた」、「現地のボランティア学生に大変お世話になり、刺激をたくさんもらった。何らかの形で恩返ししたい」などポジティブな感想を話していました。



平成28年度 中国・韓山師範学院からの留学生を受け入れました

11月13日(日)～26日(土)までの2週間、中国・潮州市にある韓山師範学院の学生10名が、本学へ短期留学しました。韓山師範学院とは学術交流協定を締結しており、毎年相互の学生が行き来し、交流を続けています。

14日(月)にはウェルカムパーティーが開

催されました。9月に韓山師範学院へ短期留学した学生や本学吹奏楽団、ストリートダンス同好会の学生達が参加し、韓山師範学院の学生と交流したり、自分たちの演奏やダンスを披露し、熱烈な歓迎をしました。

留学中は本学の各学科・専攻の教員からさまざまな授業を受けるほか、木曾駒ゼミナ

ハウスへの1泊小旅行や、大同特殊鋼工場やトヨタ自動車工場への見学などに出かけ、日本の文化やものづくり技術に触れました。

中国の学生は日本で見るもの、聞くもの全てを吸収しようと、学ぶことにに対し非常に貪欲です。お互いに良い刺激を与え、本学の学生にとっても有意義なものとなりました。



8/4(木)、日本福祉大学と連携協力に関する協定を締結しました

日本福祉大学と大同大学は、8月4日(木)に連携協力に関する協定を締結しました。

本協定は、積極的な連携協力のもと、両大学が持つ施設・設備の共同利用や事務職員の人事交流等を促進し、両大学が更なる発展を遂げることを目的としたものです。

8月4日(木)に、東海市の日本福祉大学東

海キャンパスで行われた調印式では日本福祉大学の二木立学長と本学の澤岡昭学長とが協定書に調印しました。具体的な連携事業については、今後「連携推進協議会」を設立し、検討を進める予定となっています。

調印後の意見交換の中で、地域連携に強い日本福祉大学と、産学連携を進めてきた大同



大学がお互いの強みを活かしながら連携していくことも確認されました。

人事

- 異動 【法人本部】 <事務職員>(H28.10.1) 大竹 俊輔 企画調整部 入試・広報室
- 退職 【大 学】 <教育職員>(H28.8.31) 松岡 陽子 教養部 准教授